「豊かな大地」を通じた国際貢献
―大地に実りを，子どもに笑顔を―
Supporting International Aid through Good Earth Japan

寺平 誠 Teradaira Makoto　鈴木 督人 Suzuki Shigeto　梅野 善之 Umeno Yoshiyuki

日立建機グループは，企業理念に基づいた活動で本業を通して社会に貢献し，グローバルに展開することをCSR（企業の社会的責任）活動の基本としている。その一環として，地雷除去機の製造と納入，オペレーションを通じて，これまで世界各地の地雷除去活動に取り組んできた。
しかし，単に地雷を除去するだけでは，平和で豊かな社会の実現には不十分である。地元住民が自立し，子どもたちに明るい笑顔が戻ってくることで，初めて社会貢献活動は成就する。日立建機グループは，特定非営利活動法人「豊かな大地」（GEJ）を通して，地雷除去後の地域の復興や生活再建を継続的に支援している。

1. はじめに

国際平和への貢献を目的に日立建機グループが開発した対人地雷除去機は，現在，世界各地での地雷除去作業で活躍している（図1参照）。しかし，地雷を除去した後の土地を，現地住民の自立・自活に向けて利用できるように復興することが本当の意味での貢献である。

特定非営利活動法人「豊かな大地」（GEJ：Good Earth Japan）は，日立建機グループの元従業員を中心として2007年に設立された。GEJは，戦争や紛争によって埋設された地雷が取り除かれた後の土地を農地に復興するとともに，住民の自立支援のための活動を行い，子どもたちがいつも笑顔で学び遊べる環境づくりに貢献することを目的としている。

GEJのビジョン（理念）とミッション（使命），および日立建機グループとの相関関係を図2に示す。

図1｜対人地雷除去機
油圧ショベルの機能を利用して開発したものであり，不整地や斜面などでも，地形に合わせて除去作業を行うことができる。

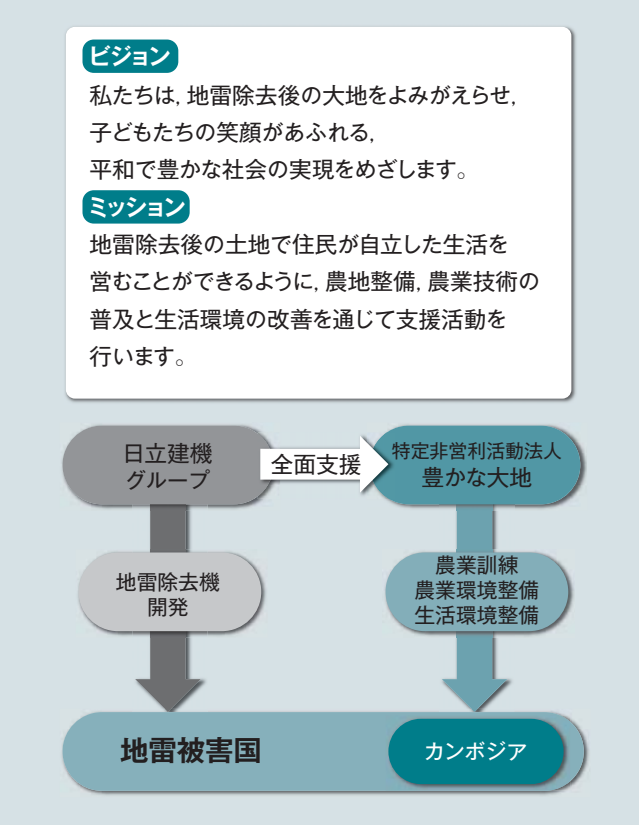

図2｜特定非営利活動法人「豊かな大地」のビジョンとミッション，および日立建機グループとの相関関係
特定非営利活動法人「豊かな大地」（GEJ：Good Earth Japan）は，地雷除去後の土地の復興や住民の自立支援などを目的として設立された。

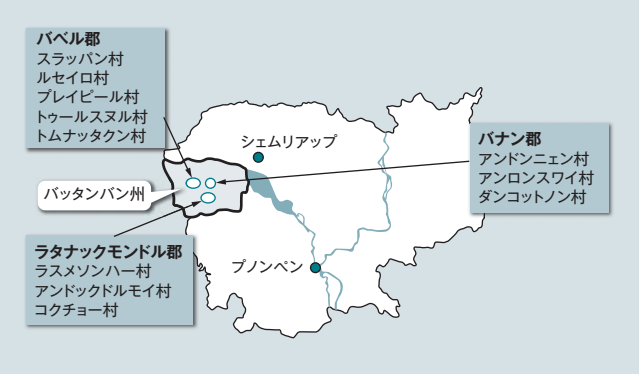

図3｜カンボジアでのGEJの活動地域
GEJが活動するバッタンバン州は，カンボジアの首都プノンペンから北西約300 kmに位置している。

現在，GEJは，日立建機グループが地雷除去活動を開始したカンボジア王国のバッタンバン州を中心に活動している。同州は，首都プノンペンから北西約300 kmにあり，自動車で6時間ほどかかる。また，アンコールワットなどアンコール遺跡群で有名なシェムリアップからも3時間以上を要するという，交通の面では不便な土地である（**図3**参照）。

GEJは，(1) 農業訓練，(2) 農業環境整備，(3) 生活環境整備の三つを柱として活動している。

ここでは，GEJのカンボジアにおける社会貢献活動の概要について述べる。

2. 農業訓練（農業技術指導）

地雷除去後の土地に住む住民の多くは内戦時代に避難民であったため，農業経験が少なく，農業技術指導への要望が極めて強い。また，日本の農業技術を普及するよりも，カンボジアの風土にあった技術指導が必要なため，バッタンバン州の農業開発局（PDA：Provincial Department of Agriculture）の協力を得て各種の農業技術指導を行っている。

GEJが2011年度に農業指導を実施した種類と，集落ごとの参加者を**表1**に示す。稲作はSRI（System of Rice Intensification）による1本植えを指導しており，直播（じかまき）農法の4倍以上の収穫増となっている。また，家庭菜園指導では牛糞（ふん），稲わら，灰などを利用した自家製有機肥料づくりや，薬草，尿などを利用した防虫液づくりの実演指導を行っている。そのほか，養鶏小屋を設置して，放し飼いから本格的な養鶏，鶏卵生産に移行する人や，きのこ栽培を実践する人などが着実に増加し，生活レベルの向上に寄与している。

表1｜農業技術訓練実施状況（2011年度実績）
バッタンバン州の農業開発局の協力を得ながら，各種の農業技術指導を行っている。

	世帯数	参加者（人）				
		稲　作	養　鶏	きのこ	家庭菜園	合　計
プレイピール村	387	60	60	—	60	180
トムナッタクン村	260	60	60	—	60	180
トゥールスヌル村	213	30	30	—	30	90
トレピアンクバスバ村	220	90	—	—	—	90
ラタナックモンドル郡3村	580	—	30	270	30	330
合　計	1,660	240	180	270	180	870

3. 農業環境整備

農業環境整備としては，2009年から2011年に実施したラタナックモンドル郡3村の240ヘクタール（2.4 km^2）の地雷除去跡地の開墾や，農業道路の敷設，ため池工事などが挙げられる。ここでは，農業道路の敷設とため池工事について紹介する。

3.1 農業道路の敷設

道路の敷設に関しては，現地での地雷除去活動を行っているカンボジア地雷対策センター（CMAC：Cambodian Mine Action Centre）をカウンターパートナーとして支援事業を行っている。

支援事業を行うにあたり，住民の往来や生活物資の輸送のための道路が冠水したり，ぬかるみで遮断されたりする状態では十分な活動ができないため，まずは最低限必要な道路整備と建設を行っている。アスファルトやコンクリートの道路はコストが高く，あるいは土盛りしただけの道路では雨に弱いため，地元で調達可能なラテライト※）を表面に締め固める道路を基本としている（**図4**参照）。また，雨期の洪水対策のため，道路両脇に排水溝を設けるとともに，冠水対策のための暗渠（きょ）排水（カルバート）を随所に建設する必要がある（**図5**参照）。

村道，農道の整備建設はすでに合計16 kmに達しているが，2011年度には外務省のNGO（Non-governmental Organization）無償資金協力制度を利用し，バッタンバン州ラタナックモンドル郡の地雷除去跡地に3.4 kmの農道を建設した。

道路建設の最大の課題は，住民に引き渡した後の道路の維持管理にある。住民による道路建設要望書には必ず自主管理を前提とした道路維持管理委員会の設置を義務づけているが，地域の住民は，具体的な修理方法の知識に乏しく，補修道具を持っていないことも多い。そのため，カンボジアの地方道路建設維持管理を管轄する地方開発局（PDRD：Provincial Department of Rural Development）の協力を得て道路維持管理セミナーを開催し，日常点検から小規模補修の実践を指導している。日本の一部の町内会に

※）鉄分を含んだ赤土であり，レンガ石とも言われる。

ラテライト道路敷設前

ラテライト道路敷設後

図4｜敷設前と敷設後の道路
建設コストや雨に対する強度を考慮し，ラテライトを表面に締め固める道路を基本としている。

図5｜カルバート
カンボジアの雨期における洪水対策として，カルバートと呼ばれる暗渠（きょ）排水を随所に建設している。

見られるような，定期的な道普請作業などの方法で自発的に維持管理が行われることが理想ではあるが，まだ緒に就いたばかりのため，長期的に支援していくことが必要になる。

3.2　ため池工事

地雷処理後の跡地の利用に際しては，カンボジアの気候の特徴である雨期の洪水と乾期の干ばつが課題になる。道路工事の際の排水工事も洪水対策となっている。乾期の干ばつへの対策として，井戸を設置することもあるが，ここではため池工事について紹介する。

図6｜多目的ため池
乾期の干ばつへの備えとして，農業用水や生活用水を確保するためのため池を建設している。

ため池は，農業用水および生活用水の確保のために設置している。GEJが支援活動を行っている地域は近くに大きな川はなく，運河建設には多大な費用がかかるため，住民から無償提供された場所に灌漑（かんがい）用と生活用水用の多目的ため池を建設している（**図6**参照）。標準サイズは，30×40×4（m）である。生活用水として使用するため池の水は，フィルタを通してポンプでくみ上げ，洗濯や行水だけでなく，煮沸して飲料水としても使用している。2013年1月現在で合計15個のため池を建設し，約14,000人に利用されている。灌漑用ため池は自家用家庭菜園などにも利用され，貴重な水源となっている。

4.　生活環境整備

道路建設やため池工事は，生活に欠かせない整備である。その一方，もともと地雷原であった地域には学校が少なく，学校がある場合でも，それは住民が資材を持ち寄って手づくりした校舎であり，雨風もしのげない状態である（**図7**参照）。カンボジアの教育省基準に合った学校であれば教師の派遣も行われるため，学校建設の要望は後を絶たず，NGOをはじめとする多くの団体が学校建設を支援している。

GEJは，2013年3月完成分を含めて，これまでに3校の学校を建設している（**図8**，**表2**参照）。

ただし，学校を作っても家の手伝いが優先で通学できない子どもや，あるいはすぐに学校をやめる子どもが多いため，建設するまでの事前調査が極めて重要になる。例えば，2013年3月に新たに学校が竣工するプレイピール村の子どもたちは，これまでは学校に通うために1時間以上も歩

図7｜既設の学校
かつて地雷原であった地域には学校が少ない。学校がある場合でも，十分な校舎がないことが多い。

図8｜新設した学校と校庭で遊ぶ子どもたち
学校建設においては，子どもたちの通学に関する事前調査が重要になる。GEJは，学校建設だけでなく，楽しく学べる環境づくりも大切にしている。

表2｜GEJが建設した学校一覧
GEJは，カンボジアでこれまでに3校の学校を建設している。

学　校　名	年　度	対象学年	生徒数
スラッパン・ヒタチケンキ小学校	2007	1～4年	80
ルセイロ・キーゼル小学校	2009	1～6年	165
プレイピール・GEJ小学校	2012	1～6年	160

く必要があった。GEJは学校建設だけを目的としているのではなく，子どもたちが楽しく学べる環境づくりを最優先に考えている。また，学校を作っても，住民の管理意識が薄く状態が悪化することが多いため，道路事業と同様に，きれいな環境で子どもたちが勉強を継続できるかが重要課題となる。そこで，GEJは，住民や教師に学校管理マニュアルを使用した維持管理セミナーを実施することにした。現在，教師を中心として学校の維持管理を実施している。

5.　おわりに

ここでは，GEJのカンボジアにおける社会貢献活動の概要について述べた。

日立建機グループは，地雷除去後の地域の復興や生活再建をめざすGEJの活動を全面的に支援している。GEJは，カンボジアで農業訓練，農業環境整備，生活環境整備の三つを柱に活動し，また，これまでに3校の学校建設を支援した。地雷がなくなり，大地に実りが戻り，子どもたちに笑顔が生まれる日が来ることを願いながら，地雷除去後の現地住民の自立支援を継続する。

参考文献など

1）Economic Institute of Cambodia：Cambodia Agriculture Development Report（2006.6）
2）Royal Danish Embassy：The School Atlas of Cambodia（2006.6）
3）Cambodian Mine Action Centre：Five-Year Strategic Plan 2010-2014（2010）
4）特定非営利活動法人豊かな大地（GEJ），http://www.good-earth-japan.org/
5）Cambodian Mine Action Centre（CMAC），http://www.cmac.gov.kh/

執筆者紹介

寺平 誠
特定非営利活動法人「豊かな大地」（GEJ）事務局長
2011年より現職

鈴木 督人
1983年日立建機株式会社入社，経営管理本部 広報戦略室 CSR推進部 所属
現在，CSR活動の推進に従事

梅野 善之
1983年日立建機株式会社入社，経営管理本部 広報戦略室 CSR推進部 所属
現在，CSR活動の推進に従事